「学び」の体験談 01

キャリアコンサルタントとCFP®を50代以降に取得

資格取得は何歳からでも可能。人生での活かし方こそ大事

突然の辞令で、これまでのキャリアと無関係の部署に異動となった山本実之さん。しかし、そこで腐ることなく、時間が生まれたことを逆に活かして勉強に取り組んだ。そして50代後半に難関資格であるCFP®も取得。人生において学び続けることの意義を尋ねてみた。

取材・構成：林 加愛

山本実之さん
明治ビジネスサポート㈱元代表取締役社長
Mitsuyuki Yamamoto
1961年生まれ。84年、明治製菓㈱に入社。原料輸入・製品輸出部門などを経て、新規事業のリーダーを務め、年間売上70億円の部門に成長させる。研修部長への異動を機に、人材育成関連の資格を多数取得。2019年、グループ会社の社長に就任。現在は、企業研修指導、資格専門学校「TAC」講師、経営者のメンターとしても活動している。

山本さんには『「人を動かす」「道は開ける」に学ぶリーダーシップ』（日本経営合理化協会）の作品もある

意に沿わぬ異動がすべての始まりだった

——大手食品メーカーで要職に就きつつ、キャリアコンサルタント、FPなど多くの資格を取得されてきた山本実之さん。まずは、ここまでの道のりを教えていただけますか？

山本　新卒入社後、20代は商社部門で原料の輸入、30代に入って海外事業部で輸出に携わり、30代後半は英国との合弁企業に出向。40代で新規事業の立ち上げに関わり、次いで営業部長に。大いにやりがいを感じてきた道のりでした。

——手腕一つで、事業の第一線をひた走ってこられたのですね。当時は、資格取得に関しては……

山本　意識の端にものぼらず（笑）。でも、学ぶこと自体は好きでした。例えばマーケティング。本で知識を得たら、すぐさま実践で活かせるのが面白く、通勤中や移動中には絶えず読書をしていました。それから、「ビジネスパーソンは会社の『外』を知るべきだ」と、常々意識していました。ですから社外の方々とも積極的に交流。中でも大きな糧となったのは、経営論の大家である故・新将命（あたらしまさみち）さんに、メンターになっていただいたことです。

——学んだことを実践し、実業界の賢人と信頼関係で結ばれ、仕事は絶好調。言うことなしですね。

山本　このまま走り続けるぞ、と意気盛んでした。ところが48歳で、突然の辞令。研修部長になれと言うのです。これはショックでした。一貫して事業部で結果を出してきた私が、なぜ利益に直結しない部署に移されるのか、と。今思えば一面的な考えですが、当初はそういう意識でした。

——辣腕の営業マンが人材育成などやってられない、と？

山本　いえ、ここが面白いのですが、実は私はもともと教師志望でした。大学四年次には内定を断って教職に就こうかと悩み抜きました。結局入社し、その後は仕事に邁進しましたが、人を育てる志は潜在的にあったのです。しかし、それを研修と結びつける発想はなかったですね。

——異動への不満感は、どう切り替えられたのでしょう。

山本　新さんの言葉が転換点になりました。「会社で誰が一番勉強するか、わかる？　研修部長のあなただよ」とおっしゃるのです。次いで「世の研修部長の中には、それらしい言葉だけ学んで使い回す『研修屋』も多い。あなたはそうなってはいけない」と。勉強を通して、会社に益をもたらす——研修部長という仕事の意義に、目を開かれました。

資格の勉強を始めたのは50代以降になってから

——研修部長としての勉強は、どのように始められましたか？

山本　以前と同様、外に目を向けました。様々な企業の研修所を見せていただいたり、研修部長に話を聞いたり。他社の方々と研修部長会をつくり、取り組みを発表し合う活動もしました。

——アクティブな学び方ですね。資格取得関連ではどうでしょう。

山本　48歳までは「資格など要らない」という考えでしたが、これまた新さんが「二人の人材の一方が資格アリ、一方はナシなら、どちらを登用する？」とおっしゃり、確かにその通りだと。そこでまず、新さんからの勧めで、「デール・カーネギー・トレーニング」を受講し、その後、米国人トレーナーの指導のもと、とても厳しい試験を経て、トレーナー資格を取得しました。

次いで、研修部長としてキャリア構築を学ぶべく、キャリアカウンセラーの講座を受けました。そしてその後の試験をクリアして、キャリアコンサルタント資格（国家資格）を取得。ですから、いわゆる「資格試験の勉強」を始めたのは、50代以降です。

——部長職と並行して勉強時間をつくるのは、大変だったのでは。

山本　いいえ、営業時代と違って、夜に時間があったのが幸いしました。50歳で国家資格のキャリアコンサルタントを取得、次いでファイナンシャルプランナーの勉強を始め、51～52歳にかけて、2級FP技能士とAFPを取得しました。

「キャリア&マネー」の知識を掛け合わせる

——キャリア系のみならず、マネー系の資格に関心を持たれたのはなぜでしょう。

山本　キャリアの相談を受けるようになってほどなく、キャリアプランニングはお金の話抜きにはできない、と気づきました。異動・独立・転職などを検討するとき、「収入にどう影響するか」は最も気になるところ。にもかかわらず「そこはFPに聞いてください」としか答えられないのでは、あまりに残念です。お金のプロとして、ともに考え「漠然とした不安」を課題に変え、対策につなげられる。同じキャリア指導でも、断然エッジが効いてくるわけです。

——相談者の視点に立ち、ニーズに応えようとされたのですね。

山本　そうです。そうしてFP2級とAFPを取得し、ひとまず満足……したはずでした。ところが思わぬきっかけで、さらなる挑戦を始めてしまいました。AFP資格は2年に1度更新する必要があり、そのための講習に行ったところ、高圧的な講師が「2級やAFPなど資格のうちに入らない」と言うのです。いささかカチンときて（笑）、上級資格のCFP®を目指してやろうじゃないか、と思いました。

——営業時代と変わらず血気盛んですね（笑）。

山本　いざ始めてみると、確かに難易度は段違い。53歳で学び始めて、最終的に取得できたのは56歳のときです。

決め手は綿密な計画 夫婦二人での勉強

——CFP®の勉強は、どのように進められたのですか？

山本　最初の1年間は、週2回、夜に会社の近くの専門学校に通学しました。受講者は、保険会社や銀行など金融系の方がほとんどでした。CFP®の6科目のうち2科目は、金融の知識があると非常に有利です。その点、私はゼロからの出発。周囲の背中を追いかける形となりました。

——そこからの3年間は、猛勉強ですね。

山本　はい。1年目は通学、2年目からは家で。2科目ずつ試験を受けて3年で取得する計画だったので、最初に年間で入れるべき知識を洗い出し、それを日割りしてスケジューリングしました。あとは、それに沿って進むのみです。平日は朝5時に起きて2時間勉強したのに加え、通勤中などのスキマ時間も利用しました。

——3年目、見事CFP®とFP1級に合格。通学という「縛り」がなくなったあとも、着実に実力を強化できた決め手は何でしょう。

山本　土日に、妻と一緒に学んだことです。当時、妻も別の資格にチャレンジしており、二人してカフェで学ぶのが週末の習慣でした。ともに語り、励まし合いながらの勉強は非常に有効で、妻がいてこその合格であったことは間違いありません。資格試験は、家族の支えと応援が何よりの力になります。感謝してもしきれません。

意外に重要！「テクニック面」の知恵

——素敵なお話です！　他にも、山本さん流の時間術があれば教えてください。

山本　術と言うよりマインドに近いですが、「学校を信じる」ことは大

効率的な学びのための心構え

- 一度、学校や問題集・テキストを決めたら、それに集中して取り組む
- 資格によっては、独学よりも学校で学ぶことを選ぶ（受験時のテクニックや攻略法を学べる）
- 同じ系統の試験を受ける場合は、間を置かずに一気に学び進める

きいです。途中で「ここで本当に大丈夫？」などと迷って学校を変えると、時間のロスが生じます。同様に、問題集やテキストを変えるのも非効率。いったん選んだら一本に集中するのが、最短で成長するコツです。

――その知恵は、独学する人には特に重要になりそうです。

山本　確かにそうですね。ただ、ことCFP®に関しては、独学はしないほうがいいと思います。一人だと、受験時の「テクニック」を知る機会が得づらいからです。試験問題の中には解答に時間がかかるものがあり、冒頭から順に解くと時間切れになります。そういう問題は解けても飛ばす、時間が余れば解くのが得策。この手の攻略法は、他にも多々あります。自力で調べるより、学校で教えてもらったほうが早いです。

――合否の分かれ目になる、重要な視点ですね。

山本　テクニック面で、もう一つ。私はAFP、FP2級取得からCFP®の勉強を始めるまでに、ブランクを置いてしまったのが失敗でした。その間に記憶が薄れたせいで、要らぬ苦労をした面があります。FPに限らず、同じ系統の試験を受ける方は、間を置かずに一気に駆け上がるのがお勧めです。

――「記憶」と言えば、40代以降の人々から「若い頃より記憶力が落ちた」という悩みがよく聞かれますが、その点はいかがでしたか？

山本　私は、さほど後ろ向きには捉えませんでした。確かに単発の事項ごとの記憶力は、若い方々に負けるでしょう。しかし、総合的な理解力＝経験値の高さに基づく深い理解や応用力は、40代以降のほうが高くなります。「すぐに頭に入ること」だけが理解ではない、と思います。

人生全体で考えれば すべての異動は「栄転」

――一連の資格を取得された後、57歳でグループ会社の社長に就任。さらには、かつて受講された専門学校での講師職、多くの企業での研修指導、経営者を対象としたコーチングなど、多方面で活躍されています。

山本　私の中では全部、ひと連なりの活動です。私のミッションは「世界中の人に、愛と夢と勇気を与え続ける」こと。教えることもキャリアコンサルティングも、その一環です。今後、さらに人材育成に向け、力を注ぎたいと考えています。

――かつて教師を目指されていたことや、研修部門に異動されたこと、すべてがミッションの実現に向けて活かされていますね。

山本　そうなんです。20代30代の頃は、こんな未来は想像もしませんでした。あの異動によって、過去のあらゆる局面が意味を持ちました。すべては、このための旅だったのかもしれませんね。

――今、「旅」の途上で迷っている人にもぜひアドバイスを。例えば、資格の勉強を望む若いパパ社員が、妻から「子どもがまだ小さいのに」と反対されている、というケース、山本さんはどう思われますか？

山本　奥様に賛成です。私たち夫婦は、子どもの小さいときは子どもと一緒に過ごす時間がなにより大切と思い、行動していました。その大切な時間がラポールの形成にもつながり、親子関係に大きく影響があると感じています。幼き頃の交流が決め手であり、やり直しがきかないのも子育ての厳しさかもしれません。資格取得はいつでもできます。50過ぎから取得した私が言うのですから間違いありません（笑）。なお、奥様に「取得のメリット」を明確に伝えることも必須。納得できる説明があれば、時期が来て勉強を始める際も、応援してもらえるでしょう。

――ありがとうございます。もう一つ、不本意な異動で意気消沈している人にも、経験者としてメッセージをいただけますか？

山本　会社の枠で考えず、人生全体で考えることをお勧めします。元気のある部署に移れば栄転、逆なら左遷、というのはあくまで会社視点。私に言わせれば、すべての異動は栄転です。元気のない部署に移れば、時間ができますね。その時間で学び、資格を得たら一発逆転です。その「不本意」は、実は絶好のチャンス。自らの人生をどうしたいか考えて、ぜひ、自分の星座をつかみに行きましょう。

勉強時間確保のための工夫

- 平日は朝5時に起きて 2時間勉強
- 通勤中などの スキマ時間も利用

土日は、別の資格にチャレンジしていた妻と、カフェで励まし合いながら勉強しました。（山本さん）